

「絵に表す活動」における多様な表現力を育む鑑賞の活動の工夫 — 鑑賞と表現をつなぐ「見て、感じて、生かそうシート」の活用を通して —

尾道市立高須小学校 山根 智香子

研究の要約

本研究は、「絵に表す活動」における多様な表現力を育む鑑賞の活動の工夫について考察したものである。思いと表現をつなぐには、多様に表現する力が必要となると考える。文献研究から、本研究における、多様な表現力とは、表現する活動において、表し方を工夫したり、新しく表現方法をつくりだしたりして、表現する力と定義した。この力を高めるために、「見て、感じて、生かそうシート」を活用し、形や色、ぬり方などの表し方の工夫に視点をあてた鑑賞を行った。児童は、鑑賞を通して取り入れたものを、「選んだり」「使ったり」「新しくつくりだしたり」「組み合わせたり」などの具体的な行為を通して自分の思いに合わせて表現の工夫として生かしていく。その結果、87.0%の作品に表し方を工夫した多様な表現が見られるようになった。このことから、「見て、感じて、生かそうシート」を活用した学習活動を行うことは、鑑賞と表現をつなぎ、多様な表現力を育むために有効であるといえる。

キーワード：表現 鑑賞 多様 「見て、感じて、生かそうシート」

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年、以下「29年指導要領」とする。）図画工作的教科の目標に「材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようとする。」¹⁾と示されている。また、小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年、以下「29年解説」とする。）では、「表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動である。」²⁾とある。

日本美術教育学会研究チームが平成27年に行った「図画工作科・美術科における鑑賞学習指導についての全国調査」によると、小学校の表現領域を含む図画工作科全般の指導への積極性については92.6%であるのに対して、鑑賞学習指導に絞ると積極層は、55.8%となっている⁽¹⁾。図画工作科全般の指導への積極性とは相当な差がみられる。

また、国立教育政策研究所が平成23年に行った「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）調査結果」によると「鑑賞の活動において、表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえること」の児童の正答は、56.5%と低い数値であった。このことから、児童の思いと表し方の工夫をつなげることが十分できていないと考え課題であると捉えた。また、

その指導の改善の中で、「表現活動の中で、児童の表現の意図や表し方の工夫を適宜取り上げ、表現と鑑賞が関連し合うように工夫することが大切である。」³⁾と示されている。

よって、児童が自分の思いをもって「絵に表す活動」を行うためには、表現と鑑賞を関連させ、形や色、ぬり方など複数の造形的な特徴を組み合わせるなどの、多様に表現する力が必要であると考える。

そこで、本研究では、多様な表現力を育むために「見て、感じて、生かそうシート」を活用した鑑賞の活動に焦点を当てる。形や色、ぬり方など、複数の視点をもって鑑賞し、表現の工夫に生かしていくことで新たな表現への広がりができる、多様な表現力を育むことができると考え、本研究主題を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 「絵に表す活動」における多様な表現力を育む鑑賞とは

(1) 「絵に表す活動」について

「29年解説」によると、図画工作科における「絵に表す活動」とは、「自分の表したいことを、形や色、イメージなどを手掛かりに、材料や用具を使ったり、表し方などを工夫したりしながら作品に表していく」⁴⁾ことだと示されている。

イメージとは、児童が心の中につくりだす像や全体的な感じ、又は、心に思い浮かべる情景や姿などのことである⁽²⁾。

以上のことから、本研究における「絵に表す活動」とは、形や色など、表し方を工夫して、児童が心の中につくりだす像や感じ、思い浮かべる情景や姿を絵に表現していく活動であると考える。

(2) 多様な表現力を育む鑑賞について

玉川信一（平成25年）は、「表現の価値は多様性にこそある」⁵⁾と述べている。また、玉川（2015）は、「最終的な作品の魅力は多様な表現の展開にこそ存在する。」⁶⁾とも述べている。表現活動は、本来、教師に教えられたとおりに表現し、上手に表現をすることに価値があるのではなく、児童の「こんな風に表したい。」という思いを自分なりに工夫して表していくことが大切にされるべきである。

「29年解説」には、表し方などを工夫してとは「絵や立体、工作に表す活動において表し方を工夫したり、表現方法をつくりだしたりすることなどである。」⁷⁾と示されている。

以上のことから、図画工作科の表現する活動において、児童が自分の思いを基にして、自分なりに表し方を工夫したり、表現方法をつくりだしたりする力が重視されていることが分かる。

よって、本研究における「多様な表現力」とは、「表現する活動」において自分の思いを形にするために、表し方を工夫したり、新しく表現方法をつくりだしたりして、表現する力のこととする。

鑑賞の活動について、「29年解説」には「表現と鑑賞は相互に関連して働き合うものとして捉え、鑑賞の活動や、作品などの鑑賞の対象を、幅広く考える必要がある。」⁸⁾と示されている。図画工作科の学習は、児童が感じたことや想像したことなどを造形的に表す表現と、作品などからそのよさや美しさなどを感じ取り、見方を深める鑑賞の二つの活動によって行われる。表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動である。

また、「29年解説」では「見方や感じ方を深めたりすることができるようになると、作品をつくり見たりするときに、よさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深め、自分なりに対象や事象を味わうことができるようになることである。」⁹⁾と示されている。

以上のことから、本研究では、見方や感じ方を深

めることのできる鑑賞の活動に焦点を当て、多様な表現力の素地をつくらせたいと考える。つまり「多様な表現力を育む鑑賞の活動」である。下の図1で示す。

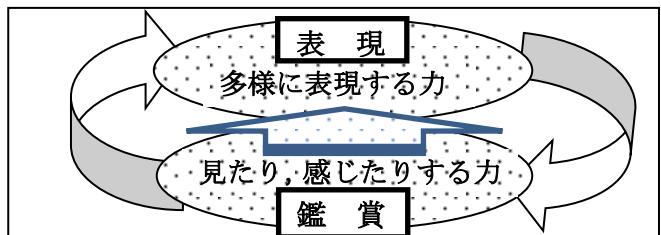


図1 鑑賞の活動における見方や感じ方イメージ図

2 鑑賞と表現をつなぐ「見て、感じて、生かそうシート」とは

図画工作科で培われる力は、「つくる」と「みる」の両者のバランスの中で育まれるものである。「つくる」ことが「みる」ことの、「みる」ことが「つくる」ことの後ろ盾になって、はじめて成立するものなのである。

児童の中には、表現の過程において、絶えず鑑賞の能力を働かせ、他者の表現のよさに気付く相互鑑賞を自然に行っている子もいる。そこで、表現と関連させる鑑賞の活動を適切な場面に設定することにより、多様な表現に関わる資質や能力を育成することができると考える。

河村陽子（平成27年）は、児童の「思い」と「表現の工夫」をつなげるために「表現ブック」を活用している。「表現ブック」とは、表現を中心に取り組んだ児童だけのオリジナルブックである。「スタンピング・吹き流し・ぼかし・散らし」などの児童が試した様々な表現方法と、それに対するイメージを言葉で表現しているものである。児童は、様々な表現方法を試すことで体験したことのある表現を思い出したり、その多様性に気付いたりすることができる。「表現ブック」の研究において、自分の思いと表現の工夫をつなげることに有効であることが明らかにされている⁽³⁾。

しかしながら、「表現ブック」は、表現を中心に取り組むものであるので、ブック製作の時間の確保が課題となると考える。そこで、本研究では、先行研究の成果を踏まえ、「絵に表す活動」の学習において「見て、感じて、生かそうシート」を開発し、活用する。「見て、感じて、生かそうシート」は、様々な表現を鑑賞して、気付いたことを言葉で書き込んでいき、自分の作品に生かすために用いるもの

である。鑑賞を中心としたシートを活用することで鑑賞で見付けた表現の工夫を効率的に取り入れることができるものと考える。

このシートを用いた鑑賞は、授業の終末だけではなく、授業の導入と途中にも行う、ダブルバーガー型で行わせる。図2に示す。

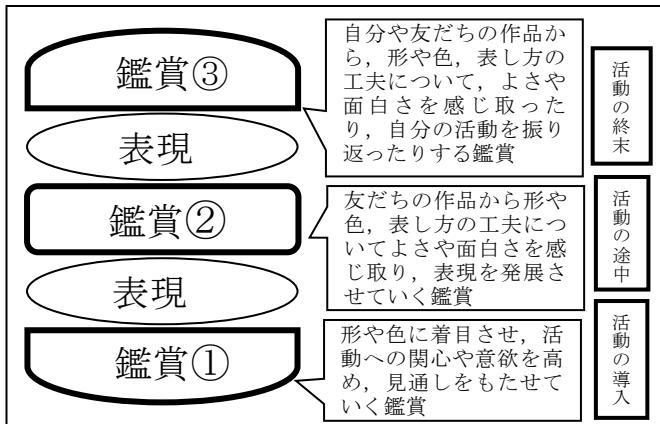


図2 鑑賞と表現の一体化を意識したダブルバーガー型単元計画

まず、学習の初めに鑑賞①を行い、多様な表現の工夫があることに気付けるように、形や色に視点をおいた鑑賞を行う。多様な表現方法を鑑賞し、自分の思いに合った表現の工夫を見付けたり選んだりしながら、表現活動に生かすことができるようになる。さらに、表現の途中にも鑑賞②を行っていく。製作過程の友だちの作品から表現の工夫を感じ取り、そこで見付けた表現の工夫も「見て、感じて、生かそうシート」を活用して、後半の自分の表現に生かすことができるようになる。最後に鑑賞③を行う。でき上がった作品から、自分や友だちの表現のよさや面白さを感じ取っていくと共に、活動の振り返りができるようになる。

ここで注意したいのは、鑑賞活動のタイミングである。「29年解説」には、「作品の製作の過程で一律に形式的な相互に鑑賞する時間を設けることは、造形活動の広がりや表現の意欲の高まりを妨げることもあるので留意する必要がある。」¹⁰⁾とある。表現と鑑賞の効果的な関連を図り、鑑賞活動が表現の意欲を高められるよう、特に鑑賞②のタイミングについては、十分留意する必要がある。具体的には、授業の始まりや、表現の途中において、個々の児童が製作に行き詰まったり、友だちの作品を見てみたいと感じたりする時にシートを用いていく。

シートの全体像を図3に示す。

(1) 「見て、感じて、生かそうシート」の「見る」とは

とは

小野瀬雅人（平成29年）は「人は、多くの情報を通して捉えているが、ある特定の対象に焦点をあて『注意を集中して』見なければ『意識』されない。対象に焦点があたっていても、注意を集中させていないと、『見ても見えていない』ことになる。『注意を集中させる』とは『意識を集中させる』ことと同義である。」¹¹⁾と述べている。

「29年解説」には、「造形的な見方とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉えること」が大切であると示されている。また、「造形的な視点は、図画工作科ならではの視点であり、図画工作科で育成を目指す資質・能力を支えるものである。具体的には『形や色など』『形や色などの感じ』、『形や色などの造形的な特徴』などであり、学習活動により様々な内容が考えられる。」¹²⁾と示されている。

以上のことから、本ワークシートにおける「見る」においては、児童がただ漠然と作品を見るのではなく、特に、形や色、表し方の工夫などに視点を当て意識して見ることができるようにしている。そうすることで、よさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をし、作品などに対する自分の見方や感じ方を深め、多様な表現へつなげていくことができるようになると考える。

(2) 「見て、感じて、生かそうシート」の「感じる」とは

「29年解説」には、「感性は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものである。表現及び鑑賞の活動においては、児童は視覚や聴覚などの様々な感覚を働かせながら、自らの能動的な行為を通して形や色、イメージなどを捉えている。」¹³⁾とある。

渡辺弥生（平成29年）は、子供の感情は言葉の中で獲得されていると考える。例えば、「うれしい」という感情は、表情、しぐさ、声、感情と「うれしい」という言葉を結びつけて理解するようになる。教師は、いろいろな感じ方があることに気付かせ、引き出してやることが必要であると述べている⁽⁴⁾。

西村徳行（2016）は、「鑑賞活動の中で、『根拠を基に語る』という言葉を、よく耳にする。鑑賞することで個々の中に生まれたイメージを、ぼんやりとした感想で終わらせることなく、その基になったことやものについて探求させるものである。根拠を基に語る鑑賞活動では、鑑賞者が対象に深く向き合うことになり、これまでとは違う、一人一人にとっ

て、より豊かな鑑賞活動を展開させることができ
る。」¹⁴⁾と述べている。

以上のことから、本シートの「感じる」とは、造形的な見方を踏まえ、形や色、表し方の工夫に視点をおいて鑑賞し、児童が感じたことをイメージと言葉を結び付けて根拠を基に表現するものとする。一つの表現においても様々な感じ方があることに気付かせていく必要があると考える。

その手立ての一つとして、「感じたことを表す言葉表」を作成する。表1に示す。見たり感じたりしたことを、言葉に表せない児童へのヒントだけでなく、授業では、全ての児童に配付し、鑑賞における言語表現を充実させることを目的とする。

表1 感じたことを表す言葉表

😊	楽しい うれしい 明るい 元気な うきうきした	😢	かなしい さびしい せつない くらいい つめたい	😊	やさしい やわらかい あたたかい ゆうがな
😊	おちついた なごむ おだやかな のんびりした のどかな	😊	しずかな さわやか ふしぎな	😊	こわい おそろしい あやしい ふあんな
😊	力強い いさましい どうどうとした そう大な はつらつとした	😊	はげしい はく力ある もり上がる にぎやかな	その他	～そう ～みたい

(3) 「見て、感じて、生かそうシート」の「生か

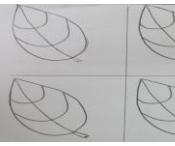
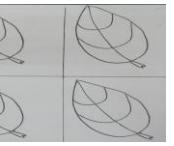
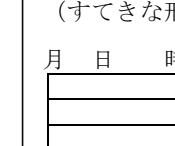
<p>「見て、かんじて、生かそうシート」 こんな木あったらいいな！</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div> <p>2年 組番 名前 ()</p>	<p>1 形を見て、かんじたことを書こう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">      </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">かんじたこと</td> </tr> </table>	かんじたこと	かんじたこと	かんじたこと	かんじたこと	かんじたこと	<p>2 みんなの色を見て、 かんじたことを書こう！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">やさしい</td> <td style="text-align: center;">力強い</td> </tr> <tr> <td colspan="2">気付いたこと・かんじたこと</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>	やさしい	力強い	気付いたこと・かんじたこと							
かんじたこと	かんじたこと	かんじたこと	かんじたこと	かんじたこと													
やさしい	力強い																
気付いたこと・かんじたこと																	
<p>3 ぬり方発見！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px;"></div> <p>気付いたこと・かんじたこと</p>	<p>4 友だちのあらわし方のくふうを見つけよう！ (すてきな形・色・ぬり方発見！)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">月 日 時間</td> </tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>月 日 時間</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">月 日 時間</td> </tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	月 日 時間								月 日 時間							<p>5 活動を振り返ろう</p> <p>(・友だちの作品をかんしょうして、 自分の作品に生かしたくふう ・自分の作品でくふうしたところ)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px;"></div>
月 日 時間																	
月 日 時間																	

図3 「見て、感じて、生かそうシート」

す」とは

「29年指導要領」においては、教科の目標の中で「材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくりたり表したりすることができるようする。」¹⁵⁾とある。

「29年解説」には、表し方を工夫してとは、「絵や立体、工作に表す活動において表し方を工夫したり、表現方法をつくりだしたりすることなどである。これは、児童が、自分の思いを基に表し方などを工夫することを重視する意味で示している。」¹⁶⁾とある。

「表し方などを工夫することを重視」とあるが、それは、多様な表現を認知して、初めてできることだと考える。鑑賞を通して見付けたことを、「選んだり」「使ったり」「新しくつくりだしたり」「組み合わせたり」などの具体的な行為を通して、自分の作品に生かしていくことで、多様な表現力を育むことができると考える。

III 「見て、感じて、生かそうシート」の具体

シートの全体像

多様な表現をするために、表現と鑑賞をつなぐ手立てとしての図3「見て、感じて、生かそうシート」を示し、1から5の鑑賞の視点について説明する。

(1) 形を見て感じる

「形を見て、かんじたことを書こう！」では、丸い形、とがった形など、様々な葉の形を鑑賞することで、形から多様なイメージが喚起されるようにする。自分や友だちのイメージを言葉にして伝え合うことで、同じ形でも、感じ方は様々で、多様にイメージできるということに気付くものと考える。

(2) 色を見て感じる

「みんなの色を見て、かんじたことを書こう！」では、「やさしい木」「力強い木」の言葉から一人一人イメージした色をパスで木の葉にぬっていく。その後、様々な色で表現された木の葉を黒板に集めて全員で鑑賞する活動を行う。色やぬり方に変化が出るように「やさしい」「強い」と対照的な二つの言葉を設定する。友だちが表現した様々な葉の色を鑑賞することで、感じことと色の表現は多様であることに気付くことができるものと考える。

(3) ぬり方を見て感じる

「ぬり方発見！」では、葉の形を型取った画用紙に様々なぬり方を試したものを見せて鑑賞し合うことで、新しいぬり方を発見したり、組み合わせたりするなど、自分の思いに合った多様な表現の工夫ができるものと考える。

(4) 友だちの表現を見て感じる

「友だちのあらわし方のくふうを見つけよう！」では、製作過程の友だちの表現を鑑賞することで、自分のぼんやりしたイメージを明確にできると考える。そうすることで、パスを使って描き加えたり、一気に表現活動が進み始めたりする姿が期待できる。そこから、更に発想・構想を膨らませ多様な表現が工夫できると考える。また、シートを用いた鑑賞は、個々のタイミングで行えるように日付と記入するスペースを複数設けている。

(5) 活動の振り返り

自分の作品を鑑賞して感じたこと（作品との対話）
友だちの完成した作品を鑑賞して感じたこと（友だちとの対話）
作品を描き始める前と完成した後の自分の変化（自己との対話）について、活動を振り返る。形や色、表し方の工夫に視点をおいて鑑賞することで、新たな表現への広がりができる、多様な表現力を育むことができると考える。

IV 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

「見て、感じて、生かそうシート」を活用しなが

ら、鑑賞と表現をつなぐ活動を取り入れれば多様に表現する力を育成することができるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法を表2に示す。

表2 検証の視点と方法

検証の視点	方法
「見て、感じて、生かそうシート」の活用は、多様な表現力の育成につながったか。	完成作品 「見て、感じて、生かそうシート」 実践前実態調査 実践後実態調査
「見て、感じて、生かそうシート」を活用した鑑賞は、表し方の工夫を見付けるのに有効であったか。	

本研究では、「見て、感じて、生かそう」シートの使用、不使用で変化があるかを見取るために実践前と実践後で検証する。表3に示す。

表3 実践前、実践後の検証方法の比較

方法	実践前	実践後
ワークシート	鑑賞して気付いたこと感じたことを記述するだけのもの	鑑賞と表現をつなぐ「見て、感じて、生かそうシート」
作品	「ひみつのたまご」	「こんな木あったらいいな」
実態調査	児童アンケート4段階評定法	児童アンケート4段階評定法

V 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期間 平成29年12月10日～平成29年12月19日
- 対象 所属校第2学年（1学級31人）
- 題材名 こんな木あったらいいな
- 主画材 パス
- 目標 形や色から感じ取ったことを基に、表したい「木」のイメージを広げ、形や色、表し方を工夫して表現することができる。

2 指導計画（全5時間）

次時	主な学習活動
1	○形や色に視点をおいて気付いたことや感じたことを「見て、感じて、生かそう」シートを活用して、話し合う。
2	○想像したことから、イメージを広げて、形や色、表し方を工夫して表す。 ・「こんな木あったらいいな」という自分の思いが伝わるように表し方を工夫して表す。
3	・「見て、感じて、生かそうシート」を活用して、友だちの作品を鑑賞し、様々な表現方法のよさに気付き、自分の表現に生かしていく。
4	・完成した木が引き立つように、背景を工夫して表す。
5	○作品を鑑賞し合い、自分や友だちの表現のよさや面白さを見取っていくと共に、自分の活動の振り返りをする。

3 授業実践

(1) 導入の工夫

授業の導入では、児童の描きたいという意欲を高めるために、木の妖精を登場させた。「冬になり、森の木が全部枯れてしまった。1月に森でパーティーが開かれるので、すてきな木に変身させてほしい。」というものである。児童は、木の妖精の願いを叶えたいという思いから、個々に「こんな木があったらいいな」と空想の木を想像し、絵に表す意欲を高めることができた。児童にとって、想像を膨らませやすく、形や色を工夫して、着彩時には多様な表現の広がりが期待できる。

さらに、どのような木を表現したいかを具体的に書かせることで、自分の表したい木のイメージや思いをもてるようにした。図4に示す。

	<ul style="list-style-type: none">・ダンスが上手なにぎやかな木・力強く勇敢な木・枝がドラゴンみたいな強そうな木・おしゃれ好きでかわいい
---	---

図4 ワークシートの記述（一部）

(2) 「形」を見て感じる活動について

「どんな感じがするかな？」と葉の形を見てイメージしたことを言葉で書かせた。イメージをもちにくい児童は、「感じたことを表す言葉表」を参考にすることで、自分が感じたイメージに近い言葉を書くことができた。例えば、丸い形に対しては、「つるつるしている感じ」「コロンとしてかわいい葉」「丸くて元気な葉」等、多様な感じ方を言葉で表現することができていた。一つの形に多様な感じ方があることを気付かせるのに有効であった。図5に示す。

				
<p>（かんじたこと）ひょうめんがつるつるするかんじのはっぱにみえました。</p>	<p>（かんじたこと）強くちくちくするような木についているはっぱ、ちょっとこわいはっぱ。</p>	<p>（かんじたこと）ひょうめんがざらざらしたはっぱ。はげしい元気なはっぱ。</p>	<p>（かんじたこと）ふわふわして、しずかなやさしいはっぱ。</p>	<p>（かんじたこと）強くて、しゃべるのが好きなはっぱ。</p>

図5 ワークシートの記述（一部）

(3) 「色」を見て感じる活動について

児童が、「やさしい」「力強い」という言葉からイメージしてぬった木の葉を、一つの木に集め全員で鑑賞した。「やさしい」という言葉からイメージした色は、ピンクや水色、黄などが多く、「力強い」

という言葉からイメージした色は、赤や紫、黒などが多く見られた。それらを鑑賞した後、感じたことを言葉にして表した。イメージする色の傾向はあるが、同じテーマでも人によってイメージする色が違うこと、また、葉=緑ではなく、自分の思いに合わせた多様な色の表し方があることに気付くことができていた。図6に示す。



図6 黒板に集まった葉を鑑賞した児童の感想

(4) 「ぬり方」を見て感じる活動について

友だちの様々な葉のぬり方を鑑賞することで、これまで体験したことのある表現方法を思い出したり、自分の作品で生かせそうなものはないかを考えたりする時間となった。また、ぬり方を組み合わせたり、つくりだしたりして、多様なぬり方を考えて表現することができていた。図7に示す。

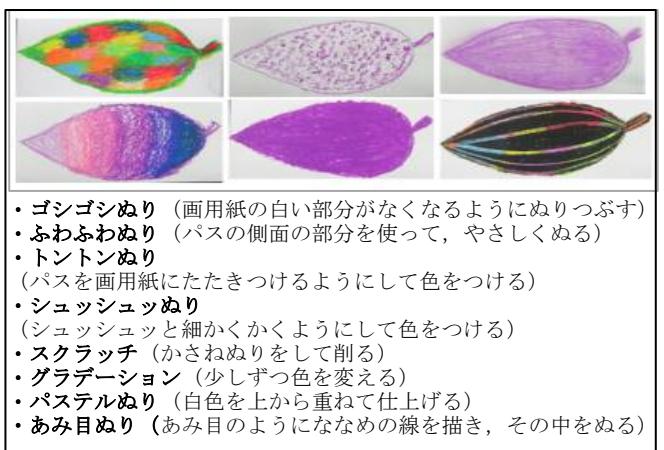


図7 児童が行った表現方法

(5) 「友だちの表現」を見て感じる活動について

表現の活動に入ると、どう描いたらよいのか悩んで、なかなか表現することができない児童もいた。そのようなときには、机間指導を行いながら、困っ

ている児童に声かけを行った。「見て、感じて、生かそうシート」を活用して、個々のタイミングで友だちの表現の工夫を鑑賞することで、参考にし、自分の表現に生かすことができていた。また、これまで、とにかく白い部分をなくそうと塗りつぶすことが多かったが、表現の途中に友だちの作品を鑑賞することで表現の工夫を新しくつくりだしたり、組み合わせたりして、自分の思いに合った、多様な表現を工夫する様子が見られた。

(6) 活動の振り返り

完成した自分の作品、友だちの作品を、形や色、表し方の工夫に視点をおいて鑑賞することで、友だちの表現のよさや自分自身の変化について、振り返ることができていた。児童の記述から、鑑賞したことを通して、自分の表現に生かしていることが分かる。

- ・初めの葉の形の鑑賞で、葉っぱの形は、1つじゃないことがわかつて、自分が描きたい「元気な木」は、どんな形にしようか想像するのが楽しかったです。
- ・友だちの木は、枝がぐいんとのびているから、まねしたいと思って描いてみたら、かっこよくなりました。
- ・友だちのてんてんぬりを見て、私も後から、取り入れました。さみしい感じだったのが、にぎやかになりました。
- ・ティッシュを使ってこすったら、ふわっときれいな色になることを初めて知りました。やってみると、やさしい木になりました。また、バスで絵を描くときやってみたいです。

「見て、感じて、生かそう」シートの児童の記述

VI 研究授業の結果と分析

1 「見て、感じて、生かそうシート」の活用は、多様な表現力の育成につながったか

実践前、実践後のアンケートによる分析を図8に示す。バスを使って表し方の工夫ができる、どちらかというとできる、と肯定的な回答をした児童は、実践前では、60.6%，実践後では、96.9%と向上している。このことから、児童は、ワークシートを活用した鑑賞の活動を行うことで、表し方を工夫して多様な表現をすることができるようになったと意識していることが分かる。

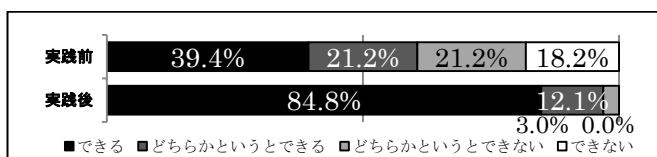


図8 「バスを使って表し方の工夫ができる」という質問項目に係る結果

実践前と実践後の実際の作品における、表し方の

工夫について分析を行った。図9のように、「見て、感じて、生かそうシート」を活用する前では、表し方の数が一種類の児童が21名と多くなった。二種類以上の表し方をしている児童の数は31名中10名と全体の32.2%にとどまっている。「見て、感じて、生かそうシート」を活用した後では、表し方の数は一種類が4名である。二種類以上の表し方をしている児童の数は31名中27名と全体の87.0%であった。

「見て、感じて、生かそうシート」を活用することで、多くの児童が、思いに合わせて形や色をイメージし、それを基にして、効果的な表し方を具体的に考えることができるようになっている。

のことから、自分の思いに合わせて、多様に表現することができるようになったと考える。

また、自分の思いを表現するために多様な表現を効果的に生かした作品を図10に示す。

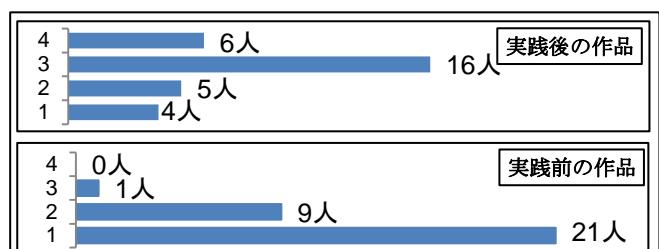


図9 実際の作品に表現された表し方の工夫の数



図10 児童の実際の作品

2 「見て、感じて、生かそうシート」を活用した鑑賞は、表し方の工夫を見付けるのに有効であったか

実践前、実践後のアンケートによる分析を、図11に示すように、作品を鑑賞して表現の工夫を見付けることができる、どちらかというとできる、と肯定的な回答をした児童は、実践前では63.6%，実践後では90.9%と向上している。「見て、感じて、生かそうシート」を活用することで、形や色、表し方の工

夫に視点を当てることができるようになり、友だちの作品の細かな表現の工夫も見付けることができるようになったと考える。

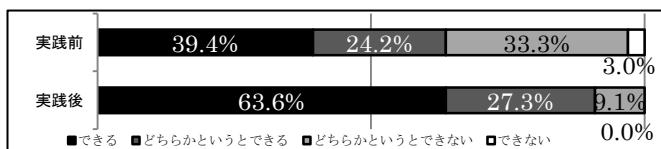


図11 「友だちの作品から表現の工夫を見付けることができる」という質問項目に係る結果

次に、ワークシートによる分析を行った。表4に示す。

表4 実践前と本研究授業第2次の鑑賞の記述の変容

	実践前	研究授業シート4
A児	トンボの羽の形がかっこよかったです。	Gさんの木のみきや根っこが太くてごつごつした形だから頑丈そうで力強い感じです。
B児	いろんなもようあって、すごいです。	木の枝が重なっていて、ぐいんとのびて迫力があったから、自分の絵にも取り入れたいです。
C児	いろんな色がいっぱい使ってあってすごいです。	緑と黄緑を繰り返しながらぬっていて、なかまの色を使うと楽しいと思いました。
D児	草の色がすごくて、細かくやっているのがいいと思います。	紫色や水色の上に白をたすと、やさしい色になってふしげだから、ぼくもやってみたいです。
E児	Hくんの絵は工夫してがんばったことが伝わってきました。	濃くぬっているところをティッシュでこするとなめらかになつて、ぬり方発見です。
F児	Iさんのぬりかたがきれいだと思います。	てんてんと、点を打ちながらぬっていました。はじけた感じがしてうれしくなりました。

表4から、A児B児は形、C児D児は色、E児F児はぬり方に視点をおいて記述している。実践前では、ぼんやりとした鑑賞で終っているが、第2次では、根拠を基に語ることができ、より豊かな鑑賞活動ができている。「見て、感じて、生かそうシート」を活用することで、形や色、表し方の工夫に視点をあて、作品の細かな表現の工夫も見付けることができるようになったことがわかる。

これらの結果から、「見て、感じて、生かそうシート」を活用して「絵に表す活動」を行った結果、鑑賞で得たことを基にして、自分の思いに合う表現方法を「選んだり」「組み合わせたり」「新しく考えたり」しながら多様な表現を行うことができるようになったといえる。児童にとって「見て、感じて、生かそうシート」の活用は、鑑賞と表現をつなぐために有効だったといえる。

VII 研究のまとめ

1 研究の成果

「見て、感じて、生かそうシート」を活用しながら鑑賞と表現をつなぐ活動を取り入れることは、多様な表現力を育成することに有効であることが明らかになった。

2 今後の課題と展望

鑑賞により、多様な表し方の工夫を見付けても、自分の思いを基に、あえて一種類の表し方を選んで描いている児童もいる。児童の思いを大切にしながらも、低学年の時期に多様な表現を試していくことで、自分の思いに合わせて表し方を工夫して描くことができるようになるものと考える。児童が「絵に表す活動」の中で、いかに思いに合わせて表現を工夫していくか、ということが課題である。そのためには、教師は児童の思いを引き出し、表現方法を考えさせるような声かけを行っていく必要がある。

今後は、パスだけでなく、絵の具や版画などの「絵に表す活動」においても、鑑賞と表現をつなぐ「見て、感じて、生かそうシート」を活用した授業を開拓していく、その効果と活用の方法を広めていく。

【注】

- (1) 松岡宏明 (2016) :『教育美術 2016年6月号』pp. 44-47に詳しい。
- (2) 文部科学省 (平成29年b) :『小学校学習指導要領解説 図画工作編』p. 55に詳しい。
- (3) 河村陽子 (平成27年) :「主体的に考え自分の思いを豊かに表現する力を育成する『絵に表す活動』の指導の工夫—思いと表現をつなげるための『表現ブック』の活用を通して—」『広島県立教育センター平成27年度前期教員長期研修 研修報告書』pp. 17-24に詳しい。
- (4) 渡辺弥生 (平成29年) :『教育研究 平成29年9月号』pp. 14-17に詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省 (平成29年a) :『小学校学習指導要領』p. 110
- 2) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 10
- 3) 国立教育政策研究所 (平成23年) :『特定の課題に関する調査(図画工作・美術)調査結果』p. 45
- 4) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 21
- 5) 玉川信一 (平成25年) :『教育美術 平成25年2月号』p. 69
- 6) 玉川信一 (2015) :『教育美術 2015年2月号』p. 68
- 7) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 13
- 8) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 22
- 9) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 14
- 10) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 52
- 11) 小野瀬雅人 (平成29年) :『教育研究 平成29年7月号』p. 16
- 12) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 11
- 13) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 15
- 14) 西村徳行 (2016) :『教育美術 2016年6月号』p. 43
- 15) 文部科学省 (平成29年a) :前掲書p. 110
- 16) 文部科学省 (平成29年b) :前掲書p. 13